



病理のわかる足腰の強い医者になって欲しい

北大医学部には実に様々な個性・才能豊かな学生がいる。一般入試合格者92名、学士編入者5名、総合理系からの移行者10名の総勢107名である。もちろん複雑な留年事情があるため各学年の学生数は一定しない。1年次は総合理系の学生として過ごし、2年次から医学部に移行して5年間で医学を学ぶ、4年生の夏にCBT・OSCEを受け臨床実習を経て5年生の6月には卒業試験、その後さらに実習が行われ6年生の秋にはポストCC・OSCEを受けて、6年生の2月初旬に国家試験、3月に卒業していく。

その中で最初に病理に触れるのは医学部3年生の4月である。我が国の医師の総数は約33万人で、内科に従事する医師が最も多く約10万人である。全医師に占める専門医率も6割を超え増加している。病理は専門医制度の基本19領域

全体に広がり、持ち回りの日本語訳もスムーズに進む。オンラインが主体のため、イラストの得意な学生の佐々木美羽さん(北大100期生)におはロビのイメージキャラクターを作ってもらった(図1)。



(図1) 教室公式キャラクター：ロビエモン

折しも、堀江貴文さん(ホリエモン)が研究の取材で教室に来られていたので(堀江貴文著、不老不死の研究、幻冬舎2022年12月発行112頁「がんの親分」を見つげ出せ、参照)、あやかっぺロビエモンと命名された。このキャラクターの意味するところは「左手にはロビンスの英文原書を、右手にはコーヒーを持っていく顕微鏡君。おはようロビンスは、コーヒーを飲みながら読もうという長嶋教授のモットーが示されたもので、左手の本は何事も英文原著に当たりながら真剣に病理診断・研究に取り組む姿勢を、またコーヒーはどのような状況でも余

の一つで病理専門医は約2800名と少数精鋭である。誰もが病理の道に進むわけではないが、病理診断・病理解剖を含む病理学は医療の基盤であり、外科病理学と言ふ言葉もあるように、消化器病理、血液病理、婦人科病理、呼吸器病理、神経病理など、ほぼ全ての臨床科での基本が病理である。病理をしつかり学ぶことで、病理がわかる臨床医を一人でも多く育成することを目標として学生の教育を行っている。

おはようロビンス!

この「週一回、朝ロビンスの教科書を読む会」は1986年に着任した第二病理の第四代長嶋和郎教授が65期の学生を対象に始めたもので、現在まで37年間続いている。毎週火曜日の朝8時から40分間、講義の前にロビンスの原書を持ち回りで読む。英語を読んで日本語に訳すという単純な勉強会で、この本を読破するのが目的ではなく、学生には「医学英語に触れるきっかけや勉強のペースにしてほしい。」と言っている。筆者も学生時代に参加したことがあるが、自分が後年主催するとは思ってもいなかった。パンとコーヒーが準備されているのが長嶋流で、これは今も続いている。ポストンベークのパンに加えて、北12条のパン屋のおばさんが手作りサンドイッチとフルーツを終了ぎりぎりに運んできてくれる。参加する学生は当初は医学部3年生だけだったが、今はニーズも多様化し

裕をもつて楽しむ、という第二病理の伝統的な教室の在り方を示したもので、教室のポリシーも代表しているということで、開講100周年に当たる2022年に教室公式キャラクターに認定され、100周年記念誌の表紙を飾った。

病理の魅力

おはようロビンスを2005年に長嶋教授から引き継いだ際には、毎年講義の最初の時間で宣伝していたが、何の単位にもならない自由参加の勉強会に果たして何名くらい来てくれるのかは甚だ不安であった。だが、内心「学生さんが一人でも来てくれるのであれば開催し続けよう」とは思っていた。実際には毎年10名以上がお試しで見に来て、その内4〜5名が残るような感触だったが、ここ10年ほどは、毎年約10名前後が参加している(図2)。自由参加の勉強会としては大変ありがたいことだ。わずか2頁ほどだが、原書をしつかり読むということは、学生を教える名目だが毎回新たな発見があり、知識がつき、自分自身病理医としても実は勉強になっていく。本当に長嶋先生が言っていたように「早起きは三文の徳(得?)」だ。

なぜ「英語の教科書を読んで訳す」というシンプルなお勉強に35年以上もの間、毎年一定数の学生が熱心に参加するのだろうか。教授の魅力で学生が多数教室に集まる、とは思えない。おそらくは臨床医学と基礎医学の架け橋とな

てきて、歯学部や学生さんや医学部でも教室のホームページを調べて入学直後から参加する学生も数名いる。

3年生の4月から臨床実習が開始されるまでの4年生の7月までをおはようロビンス参加期間と決めて、一年半通して参加した学生には「おはようロビンス賞」を贈呈している。賞状とともに「おはようロビンス」の刻印入り万年筆が副賞である。さらに皆勤賞には北大オリジナルグッズも贈呈される。2013年に非常に熱心な学生の寺井さん(91期)が皆勤で参加してくれたためこの賞が創設されたが、これまで年平均約10名が「おはようロビンス賞」を受賞している(本稿の最後に掲載)。

ロビエモン

—腫瘍病理学教室公式キャラクター

2020年のコロナ禍、4月からは完全オンライン講義となり学生は誰も大学に来ない。おはようロビンス存亡の危機であった。今では当たり前前の「オンライン配信」というものを、恐る恐る手探りで始めた。最初は単独でZoom配信をしたが、やがて会場参加者も数名加わり、対面とオンラインのハイブリッド形式となった。そのため会議システムを購入した(YAMAHAユニファイドコミュニケーションシステムYVC-1000)。部屋全体の音を拾い、自宅にいる各学生からの音声もスピーカーで部屋

る病理の魅力のためだろう。3年生でそのことに気がつく、あるいは無意識に「いいね」と感じる学生さんが一定数いるのだろう。実際にそのような学生さんは、病理の道、あるいは病理が身近な臨床科に進むことが多いような気がする。毎回訳の合間には、病理医としての経験を織り交ぜた話をするように意識している。学生さんからも病院での経験を聞きたい、少しでも早く臨床に触れたいという気持ちも伝わってくる。コロナ禍以降は最後の5分間はバーチャルスライドを使った症例提示を行っているが、さらに臨床病理的な理解が深まるということも評判がいい。この点は手稲溪仁会病院の太田聡病理診断科長(69期)に尽力いただき感謝したい。今は大学院生の加藤万里絵先生(95期)と白井裕介先生(96期)が交替で提示してくれている。また、札幌厚生病院の病理診断科長の市原真先生(79期)にも、学会で不在な時などピンチヒッターで指導に来てもらっている。学生さんも「あの有名なヤンデル先生が教室に来てくれるとは」と驚きながらもとても喜んでくれる。医学教育にも医学・医療のものにも様々なデジタルデバイスが入り込んできているが、初学者とともにアナログ的に英文原書に触れるおはロビ、至高の時間として大切にしていきたい。

最後に歴代おはようロビンス賞受賞者の名前を掲載して稿を終える。

教室だより

生理系

病理系

社会系

内科系

外科系

専医系

連携工学系

遺制研

その他

生理系

- 《生化学分野》
- 分子生物学教室 … p.64
- 医化学教室 … p.65

《解剖学分野》

- 解剖発生学教室 … p.67
- 組織細胞学教室 … p.68

《生理学分野》

- 細胞生理学教室 … p.69
- 神経生理学教室 … p.71

《薬理学分野》

- 神経薬理学教室 … p.73
- 細胞薬理学教室 … p.74

病理系

- 《病理学分野》
- 分子病理学教室 … p.76
- 腫瘍病理学教室 … p.77

《微生物免疫学分野》

- 免疫学教室 … p.80
- 病原微生物学教室 … p.81

社会医学系

- 《社会医学分野》
- 衛生学教室 … p.83
- 公衆衛生学教室 … p.85
- 法医学教室 … p.86

内科系

- 《内科学分野》
- 呼吸器内科学教室 … p.87
- 免疫・代謝内科学教室 … p.88
- 消化器内科学教室 … p.89

- 循環病態内科学教室 … p.91
- 腫瘍内科学教室 … p.93
- 血液内科学教室 … p.94

《放射線科学分野》

- 放射線治療学教室 … p.96
- 画像診断学教室 … p.97

外科系

- 《外科学分野》
- 消化器外科学教室Ⅰ … p.99
- 消化器外科学教室Ⅱ … p.101
- 腎泌尿器外科学教室 … p.102
- 心臓血管外科学教室 … p.103
- 乳腺外科学教室 … p.104
- 呼吸器外科学教室 … p.105

《侵襲制御医学分野》

- 麻酔・周術期医学教室 … p.107
- 救急医学教室 … p.107

専門医学系

- 《機能再生医学分野》
- 整形外科学教室 … p.109
- 形成外科学教室 … p.110
- リハビリテーション医学教室 … p.112

《生殖・発達医学分野》

- 小児科学教室 … p.113
- 産婦人科学教室 … p.116

《感覚器病学分野》

- 皮膚科学分野 … p.117
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 … p.119
- 眼科学教室 … p.122

《神経病態学分野》

- 精神医学教室 … p.123
- 脳神経外科学教室 … p.124
- 神経内科学分野 … p.126

連携医学系

- 《医生物学分野》
- 神経生物学教室 … p.128
- 人類進化学教室 … p.129

医理工学院

- 《画像医理工学講座》
- 生物指標画像科学分野 … p.131

遺伝子病制御研究所

- 《病因研究部門》
- 分子生体防御分野 … p.133
- 分子神経免疫学分野 … p.134

《疾患制御研究部門》

- 分子間情報分野 … p.135
- がん制御学分野 … p.136

《フロンティア研究ユニット》

- 分子細胞生物研究室 … p.138

その他医学関連

- アイソトープ研究センター … p.140
- 附属動物実験施設 … p.141
- 医学教育・国際交流推進センター … p.143
- 医学研究院・医学院・医学部図書館 … p.145

歴代おはようロビンス賞受賞者
 医学部学生 計80名 歯学部学生 計12名
 合 計 91名 (1名) 寺井小百合
 【第1回】2013年 91期(1名) 寺井小百合
 【第2回】2014年 92期(6名) 吉野光一郎、若園順康、小野寺慧洲、大浦峻介、大塚拓也、武田賢大(歯学部)実藤潤、小熊英敏、金生茉莉、坂田園美、小森美穂
 【第3回】2015年 93期(4名) 李里花、石田有莉子、小田総一郎、河内麻里亜
 【第4回】2016年 94期(6名) 上遠野なほ、秋山采慧、渡邊洋章、渡部克将、左合はるな、高橋叶衣(歯学部)早川美奈子
 【第5回】2016年 95期(5名) 石塚大暉、伊藤昂哉、高田莉央、四宮万里絵、平野靖記
 【第6回】2017年 96期(9名) 宮岡慎一、宮石陸、坂村颯真、篠裕輝、勝尾知尋、青山佳代子、倉井毅、中川恵、白井裕介(歯学部)浮田奈穂
 【第7回】2018年 97期(10名) 飯田圭祐(*)、山下たんぽぽ(*)、土橋大樹(*)、春日優介、植田沙也加、山本早姫、中島理沙、下野里奈、永本郁宏、伊勢昂生
 【第8回】2019年 98期(12名) 有田梨乃(*)、越智ますみ、川内真、川村拓斗、久世瑞穂(*)、鳴谷幸佑、高橋知一、富永紗代、野田暉翔(*)、松本侑希保、三浦匠、五味川龍(*)
 【第9回】2020年 99期(11名) 中駄勇太、



(図2) 2019年のおはロビの様子

可児涼真、山田芳郎、内田義之(*)、寺島祐樹(*)、藤島京佑、池田和隆、榎枝未紗(*)、依田恵、須藤ゆきほ、朝陽俐那(*)
 【第10回】2021年 100期(10名) 若原央、近藤隆、江端美織(*)、樋口太清、菅原ひかり、加藤愛理、佐々木美羽(*)、板谷悠帆、小澤史弥、張劭成(歯学部)大巻正幸、今井健一郎、小林茉生、熊谷七恵、鶴彩葉、大島稜介
 【第11回】2022年 101期(6名) 鍵谷豪太(*)、宮崎龍(*)、京野里虹、今田雄太郎、桑原悠人(*)、黒田花音(*)